

- 02 目次
- ◆環境管理課からのお知らせ
- 03 平成30年度 施政方針
- 04 平成30年6月補正予算
- 05 特集
- 手から伝えるあなたの思い
- 08 市政情報
- ◆国保年金課からのお知らせ
- ◆介護保険制度
- ◆後期高齢者医療制度
- ◆「避難行動要支援者名簿」を作成
- ◆木造住宅耐震についてのお知らせ ほか
- フォトコレ in ひろさき
- 16 史跡堀越城跡 整備現場見学会、古都ひろさき花火の集い ほか
- 17 学生企画コーナー
- もっと②♥弘前!!
- 18 暮らしの information
- イベント、教室など
- 26 Health Information
- 健康の掲示板

- 28 smile 通信
- さらっと一句・川柳
- 弘前図書館近着図書紹介
- 食改さんおすすめレシピ

環境管理課からのお知らせ

7月以降の「燃やせるごみ」と「燃やせないごみ」の出し方について

7月以降も今までどおり、「ごみの分け方・出し方」に記載している袋で出してください。



■問い合わせ先 環境管理課廃棄物政策係（町田字筒井、☎32・1969）

たか丸くんの ごみ減量速報

弘前市の燃やせるごみの総排出量

平成30年4月のごみ排出量	5,107t	28t 増 (昨年同月比)
1人1日当たりのごみ排出量	987g	
30年度	987g	
	972g	
	差	15g

(家庭系・事業系を合計した数値。資源化物などは除く。)

7月はごみの減量とリサイクルに取り組む3Rステップアップキャンペーン期間中だよ！
リデュース（発生抑制）、リユース（再利用）、リサイクル（再生利用）を実践して、どんどんごみを減らしていこうね！



■問い合わせ先 環境管理課資源循環係（町田字筒井、☎35・1130）



【今号の表紙】

簡単な手話から覚えてみよう

平成30年3月16日に「弘前市手話言語条例」が制定されました。この条例の制定によって、聴覚に障がいのある人があらゆる場面で手話による意思疎通ができるよう、市でもさまざまな施策を実施しています。

表紙の手話は「手話」という意味。今後は今まで以上に手話が活用され、さまざまな場面で手話を目にする機会が増えることでしょう。

平成30年度

施政方針



4月の市長選挙で当選後初めて招集した平成30年第2回市議会定例会の初日（6月8日）、櫻田宏市長は施政方針演説を行い、新たな任期に向けた決意を表明しました。

本号では、演説の内容を一部抜粋して紹介します。

市民生活を第一に
くらし いのち ひと
3つの柱で未来を築く

我が国は今、人口減少と少子高齢化が進行し、本市においても福祉や子育て、介護、教育、雪対策のほか、高度経済成長期以降に整備された多くの公共施設が更新時期を迎えるなど、課題が山積しており、行財政改革や地方創生に向けた取り組みを加速させていかなければなりません。

市民の皆さんの負託に応えるべく、地方自治法に規定する「住民福祉の向上」を踏まえ、私の政治理念である「市民生活を第一に」、市民の「くらし」を支え、市民の「いのち」を大切に、次の時代を託す「ひと」を育てる、この3つを柱にこれからの弘前、新しい弘前づくりにまい進いたします。

「くらし」では、市民のくらしに寄り添い、誰もが生き生きと活動できる、雪国ならではの快適なまちづくりを進めます。

ごみの減量化は市民生活に直結した大きな課題です。市民とともに創意工夫を図りながら、取り組んでまいります。

除排雪については、市民が快適に安心して生活できるよう、より効果的、効率的な方法を検討します。

農業については、高品質な農作物の生産量を確保するとともに、意欲ある農業者が将来にわたって持続可能な農業経営を行うことができるよう、鋭意取り組みます。

「いのち」では、質の高い医療提供体制の構築及び救急医療体制の恒久的な維持など、将来にわたり地域医療をしっかりと守り支え、市民の健康長寿が図られるよう努めていくことが市の責務です。

健康長寿のまちづくりを推進するとともに、介護や子育てなどの福祉施策の更なる充実を図ります。

市民の「くらし」を支え、市民の「いのち」を大切にしていくためには、次の時代を託す「ひと」を育てていくことが重要です。

次の時代を託す「ひと」を育てるためには、学校と地域とが協働して学びの場を創出し、弘前全体が「学びのまち」になる必要があります。親と子が共に豊かな人間性や社会性を育むことができる環境づくりに努めてまいります。

また、弘前市が持続的に発展していくためには、各種産業の活力を維持・向上させる必要があります。

農業分野については、後継者の育成を図るとともに、労働力の確保に向けた新たな仕組みを構築してまいります。

商工業分野では、製造業の基盤強化をはじめ、企業誘致や地元生産品の販売力強化、中心市街地活性化対策等のほか、若者の地元就職を促進するための取り組みを強化します。

観光分野では、多くの観光資源を本市の優位性と捉え、更なる魅力の向上と時流に流されることのない足腰の強い観光のまちづくりを推進します。

以上、「くらし」、「いのち」、「ひと」の3本の柱を基本として市政運営を行うほか、財政支出の見直しも行います。

事業の実施や施設の整備にあたっては、市民にとって本当に必要なものなのかどうか、市民の目線・気持ちに立ち費用対効果等を考え、慎重に判断いたします。

これからの4年間、一つ一つの課題に真正面から真摯（しんし）に向き合い、解決策を積み重ねながら新しい弘前をつくり上げていく決意です。市民の皆さんのご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。